氏　　名	恒松　晃司
学位の種類	博士（医学）
学位記番号	甲第４５４号
学位授与年月日	平成２８年３月２５日
審査委員	主査　教授　　並河　　徹
	副査　教授　　吉山　裕規
	副査　教授　　内尾　祐司

論文審査の結果の要旨

子宮頸癌の原因とされるHuman papillomavirus (HPV)と頭頸部癌との関連が近年注目されているが、口腔領域における前癌病変とHPV感染の関連についてはいまだ統一された見解がない。申請者は、口腔粘膜における境界病変と口腔扁平上皮癌でHPV発現に差があり、そのことが診断のための有用なマーカーになるのではないかとの発想に基づいて、本研究を実施した。口腔粘膜病変組織標本150例(正常組織:12例,口腔上皮異形成症:41例,口腔上皮内腫瘍:30例,口腔扁平上皮癌:67例)を対象にHPV16, HPV18, P16の免疫組織化学染色を施行し、各病変内での陽性細胞率について、性別、年齢とともに検討した。 正常組織,口腔上皮異形成症,口腔上皮内腫瘍については、HPV18,P16を発現する陽性細胞の率がこの順に有意に上昇した。更に、回帰樹木分析を用いた解析では、年齢、HPV18染色、P16染色が識別因子となり、正常組織と口腔上皮異形成症,口腔上皮内腫瘍を識別できることを示唆する結果が得られた。

この結果は、将来HPVやP16染色を用いた口腔粘膜病変の鑑別法開発に繋がる成果であり、臨床的意義が高い研究である。